

植物防疫情報第5号

平成21年8月25日
岡山県病害虫防除所
岡山県植物防疫協会

ハスモンヨトウによるダイズ等の被害の増加に注意してください

岡山県病害虫防除所の8月17日～18日の巡回調査によると、ハスモンヨトウ若齢幼虫の食害によるダイズの被害葉（白化葉）の発生ほ場率は10.0%で、平年（4.7%）より高くなっています。地帯別発生ほ場率は南部30.0%（平年8.1%）、中部0%（平年3.2%）、北部9.3%（平年3.8%）であり、発生には地域的な偏りが見られました。赤磐市及び津山市のフェロモントラップにおける誘殺数は、8月1半旬までは平年より少なく推移しましたが、津山市では8月2～4半旬に平年並となり増加傾向にあります。今後、本虫の増殖に好適な高温乾燥条件が続くと発生量が増加する可能性があるため、ほ場を観察して今後の発生動向に注意し、幼虫の発生が確認された場合は速やかに防除を実施してください。

《防除対策及び防除上の参考事項》

- (1) 若齢幼虫が群生している被害葉を切り取って処分する。
- (2) 薬剤防除は、若齢幼虫の時期（ダイズでは白化葉が散見され始める時期）に薬剤が葉裏にかかるように行う。老熟幼虫になると薬剤の効果が劣る。
- (3) 本虫はダイズをはじめ、野菜、花き、果樹など広範囲の農作物を加害する。ダイズ及びえだまめにおける主な防除薬剤は下表によるが、野菜類等他の作物で発生がみられる場合は、各作物における最新の農薬登録情報を確認して適正に使用する。
- (4) 薬剤散布後にも幼虫の発生がみられる場合は追加防除を行うが、薬剤抵抗性の発達をさけるため、同じ系統の薬剤を連用しない。
- (5) 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を厳守し、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等へ農薬が飛散しないよう十分注意する。
- (6) 最新の農薬登録情報は、独立行政法人農林水産消費安全技術センターホームページ (<http://www.acis.famic.go.jp/>) で確認できる。

表1 ダイズにおけるハスモンヨトウの主な防除薬剤

系統名	薬剤名	農薬使用基準		
		使用時期	使用回数	希釈倍数・使用量
カーバメート系剤	ラービフロアブル	収穫14日前まで	2回以内	750倍～1000倍
	ランネート45DF	収穫14日前まで	4回以内	1000～2000倍
合成ピレスロイド系剤	トレボン乳剤	収穫14日前まで	2回以内	1000倍
	トレボン粉剤DL [*]	収穫14日前まで	2回以内	4kg/10a
IGR剤	アタブロン乳剤	収穫14日前まで	2回以内	2000～4000倍
	ロムダンフロアブル	収穫14日前まで	3回以内	2000倍
	ロムダンゾル	収穫14日前まで	3回以内	1000倍
	ロムダン粉剤DL	収穫14日前まで	3回以内	4kg/10a
	ノーモルト乳剤	収穫14日前まで	2回以内	2000倍
	カスケード乳剤	収穫7日前まで	2回以内	4000倍
	マトリックフロアブル	収穫前日まで	3回以内	2000～3000倍
その他	プレオフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	1000～2000倍
	フェニックス顆粒水和剤	収穫7日前まで	3回以内	2000倍
	トルネードフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	2000倍

* 豆類（種実）で登録

表2 えだまめにおけるハスモンヨトウの主な防除薬剤

系統名	薬剤名	農薬使用基準		
		使用時期	使用回数	希釈倍数・使用量
カーバメート系剤	ランネート45DF	収穫7日前まで	3回以内	1000～2000倍
合成ピレスロイド系剤	トレボン乳剤	収穫21日前まで	2回以内	1000～2000倍
	トレボン粉剤DL	収穫21日前まで	2回以内	3～4kg/10a
IGR剤	アタブロン乳剤	収穫14日前まで	2回以内	2000倍
	ノーモルト乳剤	収穫14日前まで	2回以内	2000倍
	カスケード乳剤	収穫7日前まで	2回以内	4000倍
	マトリックフロアブル	収穫前日まで	3回以内	2000～3000倍
その他	アフファーム乳剤 [*]	収穫3日前まで	2回以内	1000～2000倍
	プレオフロアブル	収穫前日まで	2回以内	1000倍
	トルネードフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	2000倍

* 散布された薬剤が河川、湖沼、海域および養殖池に飛散または流出するおそれのある場所では使用せず、これらの場所以外でも、一時的に広範囲には使用しないこと。また、調整した薬液は全てを使い切るようにし、散布に使用した器具や容器の洗浄水は、河川等に流さず、散布むらの調整やかん水等に使用し、空容器、空袋等は、廃棄物処理業者への処理の委託等により安全に処理する。